

## [外部研修会等参加事業]

### 19 平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会（第54回）東京大会 シンポジウム

主 催：全国スポーツ推進委員連合、関東スポーツ推進委員協議会、東京都スポーツ推進委員協議会

共 催：東京都 墨田区

主 管：関東スポーツ推進委員研究大会東京都実行委員会

後 援：スポーツ庁

日 時：平成30年6月8日（金）

場 所：墨田区総合体育館 メインアリーナ

テーマ：「スポーツが未来を変える」

～一億総スポーツ社会の実現に向けたスポーツ推進委員の役割～

参加者：立川市11名、関東地区全体（1都8県）1,993名

内 容：平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会は、関東地区（1都、8県）のスポーツ推進委員が一堂に集まり、当面する生涯スポーツの諸問題について研究協議し、委員としての資質の向上と相互の情報交換を図り、地域スポーツの発展に寄与する目的で行われた。

6月8日（金）の第1日目は、開会式・表彰式・シンポジウムが行われた。

新島二三彦東京都スポーツ推進委員協議会会長の挨拶、顧問の齋藤斗志二全国スポーツ推進委員連合会長の挨拶、来賓の潮田勉東京都オリンピック・パラリンピック準備局長の挨拶、来賓の山本享墨田区長の歓迎の言葉が続けられた。

つづいて、来賓紹介と主催者大会役員の紹介が行われた。

平成30年度関東スポーツ推進委員協議会表彰の受賞者は87名であった。

アトラクションとして、日本大学豊山女子中学・高等学校体操部によるチークワークのよい創作ダンスが行われた。

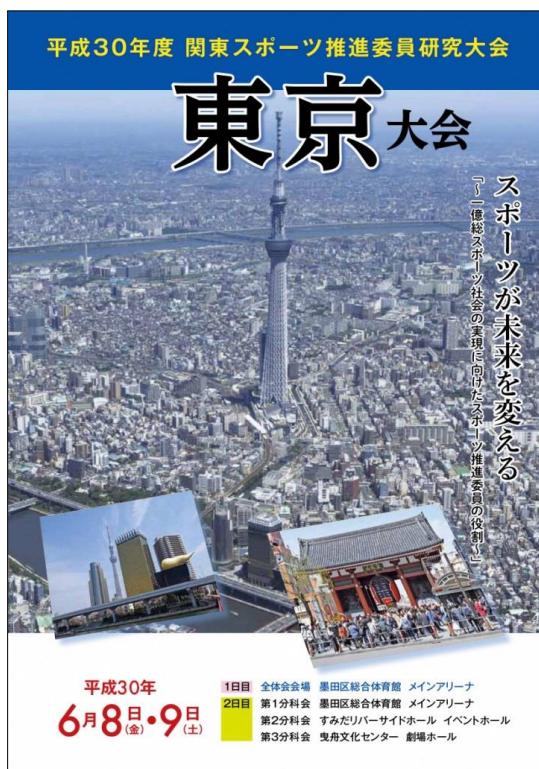
シンポジウムとして、「スポーツ参画人口の拡大に向けて」～スポーツ推進委員への期待～と題した討論が行われた。

コーディネータは、松尾哲夫氏（立教大学教授）、パネリストは、辻秀一氏（スポーツドクター）、高崎尚樹氏（株）ルネサンス取締役専務執行役員）、高山浩久氏（東京都障害者スポーツ協会）による活発な討論が行われた。

2011年のスポーツ基本法の前文でスポーツは幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとされている。スポーツ基本計画では、スポーツ参画人口（スポーツ実施者）の拡大とスポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実が大切であり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、すべての人に開かれたスポーツ文化として定着できるかが問われる50年となる。

スポーツ推進委員は、スポーツの指導者として障がい者・高齢者に配慮したスポーツ・運動の工夫と取組など、今後のスポーツ振興に貢献することに期待します。

報告者：川又 敏正



## 20 平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会（第54回）東京大会 第一分科会

主催：全国スポーツ推進委員連合、関東スポーツ推進委員協議会、東京都スポーツ推進委員協議会

共催：東京都 墨田区

主管：関東スポーツ推進委員研究大会東京都実行委員会

後援：スポーツ庁

日時：平成30年6月9日（土）

会場：墨田区総合体育館メインアリーナ

立川市参加者：スポーツ推進委員3名 スポーツ振興課職員3名

テーマ：「スポーツを好きにする多角的・心理的アプローチ」～スポーツ未実施者の掘り起こしに向けて～

講師：コーディネータ 辻 秀一氏（スポーツドクター（スポーツ心理学）、株式会社エミネクロス代表）

話題提供者 村田 祐造氏（スマイルワークス（株）代表取締役、東京セブンズラグビースクール校長、  
元プロラグビー選手 元日本代表チームコーチ）

澤田 智洋氏（一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会代表理事、  
（株）電通（コピーライター・プロデューサー）

内容等：

生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤として、国民の誰もが各々の年代や関心、適正等に応じて日常的にスポーツに親しむ機会を充実することが課題となっている。

小学校低学年まではスポーツ好きが多いものの、何かをきっかけにスポーツ嫌いに転じ、その後もスポーツに親しむことができない人が多数いる。その心理を理解し、スポーツ嫌いにさせない方策やスポーツに興味を持たない人を誘う方策について、事例を交えながら考える。

Flow＝ごきげん。人は例外なく心がフローに傾くと機能は上がりノンフローに傾くと機能は下がる。笑顔を大事にするとごきげんになる。スポーツで一生懸命を楽しむ。出来なくても良いからそれを楽しんだら人生楽しめる。子どもの頃は誰でも出来ていた。指導者は気持ちが良い声掛けをどれだけしているか。自分のして欲しい事をする、ごきげん支援を心がける。

スポーツ弱者を世界からなくす、スポーツ弱者をヒーローにする「ゆるスポーツ」の紹介。

- ・球技が苦手→ゆっくりパスを出さなければいけない「ベビーバスケットボール」（赤ちゃん人形を泣かさないようにパスして運ぶ）
- ・足に障害がある→足を使わない、「いもむしラグビー」（下半身を使わずに這って転がるなどで移動しボールをパスする）
- ・全身動かない→「トントンボイス相撲」（紙相撲と同じでトントンの声に反応する）
- ・氷見市の「ハンギョボール」（出世魚のぶりを投げる手のわきに挟みシュートするハンドボール。得点すると出世して魚が大きくなる。全員が出世し得点を増やす）

スポーツを多角的に見て正解はない。スポーツの魅力をどうやって伝えれば良いか、ごきげん良く生きる、その価値を知って欲しい。

報告者：遠藤 邦子

## 21 平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会（第54回）東京大会 第三分科会

主催：全国スポーツ推進委員連合、関東スポーツ推進委員協議会、東京都スポーツ推進委員協議会

共催：東京都 墨田区

主管：関東スポーツ推進委員研究大会東京都実行委員会

後援：スポーツ庁

日時：平成30年6月9日（土）

場所：墨田区曳船文化センター

テーマ：「共生社会へのアプローチ」～障害のある人のスポーツ活動の推進（スポーツ実施率向上）に向けて～

コーディネータ：高山 浩久 氏（東京都障害者総合スポーツセンタースポーツ支援課 課長）

### ① 小平市スポーツ推進委員会 尾崎 信幸 氏

#### ・事例紹介

ニュースポーツデーの開催（年3回）

ユニカール・ミニテニス・ボッチャを実施、障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しめる機会を提供

障がい者運動会・ボッチャ交流会への協力

スポーツボランティアの育成

地域でスポーツを支える人材の育成

イベントを行う際には関係機関（行政・社会福祉協議会・スポーツ推進委員）とのネットワークが重要との事。

### ② 笹川スポーツ財団 小淵 和也 氏

・スポーツ基本法改正により、障がい者スポーツは厚生労働省からスポーツ庁へ移る。

・日本の障害者スポーツ（3つの転換点とその変化）

東京パラリンピック（1964年）→障害者スポーツの種が蒔かれ、徐々に育っていく

長野パラリンピック（1998年）→リハビリの延長からスポーツへ。社会面からスポーツ面へ。

東京パラリンピック（2020年）→どんなパラダイムシフトが起こるのか？

またパラリンピックに対するメディアの取扱が増加している。

・障害者スポーツの指導

障害の種類、程度→多種多様。

目的に応じた指導、支援、協力が不可欠→指導に関わる人材も多種多様であるべき。

・障害児・者がスポーツする環境

いつでも、どこでも接することが出来る連携体制の構築→推進委員の役割は今後一層、重要になる。

### ③ 東京都障害者総合スポーツセンター 廣木 美奈 氏

・東京都障害者スポーツ協会の主な活動内容

1. 都内二ヶ所の「障害者スポーツセンター」の運営（北区・国立市）

2. 障害のある人たちのスポーツ団体への支援

3. 大会・教室の開催、全国大会への選手派遣

4. 選手養成を支援する事業の実施

5. 支える人材を対象に研修会や講習会等の開催

6. 地域での障害者スポーツ振興への取組み

7. 企業・団体等に向けた障害者スポーツ支援に関する相談窓口の開設

8. 障害のある人もない人も一緒に参加出来る競技大会の実施

9. 広く一般都民に向けて、障害者のスポーツへの理解を促進する事業実施

10. 有効な情報を提供するための調査・研究活動の実施

・「障害者スポーツ地域パワーアップ事業」

対象団体：各区市町村（スポーツ及び福祉主管課・スポーツ施設・スポーツ推進委員・体育協会）、

地域スポーツクラブ、社会福祉協議会、福祉施設、学校等

支援メニュー

1. 開拓推進事業→イベント・体験会・研修会・講演会などの事業への企画・実施のお手伝い

2. 指導員等派遣事業→大会や教室等の事業に対して、指導員の派遣

3. 用具の貸与事業→競技用車いすやブラインドサッカーのボール等用具野貸与

報告者：藤原 宣幸

## 22 平成30年度実務研修会

主催：東京都スポーツ推進委員会協議会

日時：平成30年8月5日（日） 14：00～16：30

場所：板橋区仲宿地域センター

参加者：96名

対象者：スポーツ推進委員

目的：テーマ「人が集まる企画・チラシの作り方」

講師・団体名：女性向け創業支援施設「ハシオンTOKYO」センター長 坂田 静香 氏

内容：

<座学>

### (1) 人の集まらない講座の言い訳TOP3 + 番外編

TOP1から降順に記載。4番目が番外編である。

#### 1 ひらきなおり

人が来ないような講座だからこそ行政がやっている。だから人が集まらなくてもしかたない。

こんなに良い講座だからいつかは報われるだろう。

人が集まらなかろうがやることに意義がある。

#### 2 市民の意識が低い

#### 3 天気が悪かった or 良すぎた

#### 4 東京とは地域性が違う

人が来ない原因は「企画力」と「広報・PR力」が不足しているだけ。

たとえ成功しても同じやり方で効果が持続するのは3年くらい。

### (2) 企画力向上ワーク

5つの講座とそのチラシを例に用い、グループにわかれて一番人気の講座と一番不人気の講座について予想しディスカッションした。

その後、講師による解説が行われた。

#### 講座① 変わりゆく社会と女男（ひと）

もっとも不人気だった講座。役所で見慣れたチラシ。

定員40人に対し、申し込みは16人。そのうちの6人はスタッフで残りの10人はよく役所にくる固定客という惨劇ぶり。

原因としては、文字が多く、とにかくわかりづらい。そして主催者が教えた内容になってしまっており、ターゲットも不明確。

これでもかというくらい講師がケチンケチンにこきおろしていたが、担当したのはまさかの初期の講師自身。

#### 講座② 幸せオーラを味方につける女性学講座

#### 講座③ おひとりさまを乗り切る知恵と工夫

#### 講座④ パパの手で作る赤ちゃんのハッピースマイル

#### 講座⑤ 男の生き方塾（有料）

講座②～⑤はすべて定員以上集まった。

一番人気だった講座は講座③。

チラシを見る人は、文字が大きい所を見るので企画の売りを一番大きくする。

講師が有名人ならその人自身が売りになる。

チラシの上1/3を使って良いので、タイトルやゴールを一番魅力的な言葉で記載する。

タイトルは前向きなのが良い。多少長くてもよいから自分が受講したらどうなるか見えるものが良い。最後は断定表現にすると良い。

チラシには、無料などのセールスポイントは記載したほうがよい。

魅せるチラシにする。読ませるチラシは論外。

会場の地図や住所はのせたほうがよい。

表面に優先順位の高い内容を、詳細は裏面でよい。

行きたく無いと思わせる内容（グループ討議、全回出席など）は載せないほうがよい。

読んでいる人の立場を否定するようなことは書かない。

男性を集めるのは女性より難しい。

### (3) 「企画力」と「広報力」向上のために

- ・他地区や同業他社の講座の内容、人の入り、参加動機、対象者に響く言葉、対象者の会話をリサーチ
  - ・アンケートをとるとよい  
書く時間は講座の時間内に設ける。  
満足度を聞くと、悪い理由も記載してくれる。  
アンケートをとったら、分析。
  - ・広報手段を探す
  - ・色々な人と話したり、講座にでたり研修に参加する  
客観性を身に付けるため。  
講師選びや仲間づくり。
  - (4) キャッチコピーのつけ方
    - ・ゴールが見える、対象者がわかる断定系もしくは体言止め  
「見えるぞ…私にもゴールが見える！」
    - ・子どもむけ、親子ものは楽しそうなタイトルを
    - ・講師のセールスポイントを入れ込む  
そこにいかないと聞けないと思わせると良い。
  - (5) もっとも大切なことは…  
まずは企画ありき！
    - 1 対象を絞る
    - 2 タイトルにこだわる  
本当に大事。心に響くゴールの見えるタイトルにする。
    - 3 担当者の努力と熱意  
あきらめたらそこで試合終了ですよ…？分析して改善するのも大事。失敗体験をバネに。  
他の地域でうまくいったから自分の地域でうまくいくとは限らない。自分の地域性を考慮する必要がある。  
企画と広報は掛け算。  
どちらかがダメだと人は集まらない。
- 感想：
- ・研修内容はもちろんのこと、講師自身も面白かった。
  - ・ただの講義ではなく、グループ討議を入れるなど受講者が飽きない工夫がされていた。
  - ・人が集まる講座とチラシ作りについての講座だったが、その内容の応用範囲は人間性にも及ぶと感じさせられた。ひらきなおったり他人のせいにしてしているようでは人が集まる講座なんて一生できないのは納得できるし、そのような人は人間的魅力…たったの5くらいのゴミでしかなく、人が集まる人間になんてなりえないという事を感じずにはいられなかった。  
また、成功の上にあぐらをかいていてもダメで、人を惹きつける魅力的な講座でありつづけるためには努力や工夫が必要であることを思い知らされた。  
きっと夫婦円満の秘訣も同じかもしれないとふと思ってしまった。  
でも、この人だけはひらきなおったりあぐらをかいたりしても許されてしまうのかもしれない。だって、「人間だもの みつを」
  - ・立川でも毎年恒例だからとやるのが目的になっていて、もっと企画や広報を見直せるイベントはあるのではと思った。  
毎年恒例、参加者は年々高齢。

報告者： 渡邊 佑輔

## 23 平成 30 年度 東京都地域スポーツ支援研修会（市町村部）

主 催：一般社団法人 東京都スポーツ推進委員協議会

共 催：東京都

開催日：平成 31 年 2 月 9 日 13:40～16:35

場 所：立川市女性総合センター・アイム ホール

参加者：183 名、立川市スポーツ推進員出席者 9 名、スポーツ振興課職員 3 名

テーマ：「地域におけるスポーツ事故防止」

研修会次第

- ・開講式
- ・講義 「地域におけるスポーツ事故防止」
- ・トークセッション 「地域におけるスポーツ事故防止の現状と課題」
- ・閉講式

研修概要

### 1. 講 義

- ・講師にスポーツ創造政策研究所代表の、鈴木知幸氏を迎え、スポーツ時の事故と、その責任の問われ方について事例紹介を中心に解説あった。
- ・氏は、事例を数多く紹介することに重点を置いたと思われ、解説は短く、事故に対する法廷での争点と責任所在の判例を時間一杯紹介いただいた。自分としては予想できない判例も多く、特に最近判例が変わりつつあることを知り、スポーツを運営・指導する上で注意が必要であることを認識した。特に注目すべき変わりつつある判例の傾向は、従来スポーツはある程度事故や怪我のリスクはプレーヤーにあったものが、指導者や、施設運営者の責任が大きく問われるようになってきていることに思われる。
- ・このように、事故と判例の紹介を受けると、スポーツの運営や指導に対して消極的になるような懸念はあるが、スポーツの事故に対して、その原因、責任所掌の判例を知ることによって大事なことはつぎのようなことだと感じた。
- 運営者・指導者としての責任の重さを再認識する。
- プレーヤーの年齢やスキルに応じて、適格な助言を行う。
- 同じような過ちを起こさない。
- 万一、事故に遭遇した場合に、関係者への連絡を含めて適切に対応する。

その上で、お互いを楽しんでスポーツを行える環境を整えることが必要であろう。危険性ばかりに着目してスポーツを制限してしまえば、スポーツ本来の楽しさが損なわれ、本末転倒となってしまうし、スポーツの一面には親睦で楽しむ以外に、自分の限界に挑戦し、それを乗り越えることの楽しさもあるのだから。

- ・研修を通じて、運営者・指導者は普段から有事の際の対処方法をシミュレーションし、役割分担しておくことや、工事現場で安全対策として行われる KY（危険予知活動）をスポーツ実施直前に実施することも有効と思った。
- ・事事故例以外に紹介いただいた件は、スポーツ指導に起因する問題点、団体保険の保障要項がある。スポーツ団体保険で保障されている事項は意外な事項も含まれていることがわかり、保険内容は一読しておくべきことを再認識した。

講義で紹介された事事故例を含むパワーポイントの 4 アップ印刷されたものが当日配布され、内容はそちらに詳しい。

### 2. トークセッション

- ・東京都スポーツ推進委員協議会 企画総務委員会 山本博志氏をコーディネータに迎え、当番地区代表の、稲城市・鷹野洋子氏、桧原村・芦川雅一氏、東大和市・笠松文子氏および武蔵野市・櫻井昭氏をパネラーとして課題に対するセッションが開催された。

トークセッション風景

- ・セッションのテーマは「地域でのスポーツ事故防止の現状と課題」であり、まず、各市の状況発表に始まった。
- ・武蔵野市ではスポーツ会場での怪我の発生と以後に制定した対策が報告されたが、その他の市では幸い大きな事故は発生していないということであった。各市とも当然事故に備えてそれぞれ工夫を凝らしていることは頷けた。
- ・スポーツ事故防止については各市とも独自に手さぐりで対策を実施していることも浮き彫りになったと思われる。事故発生は、予想しない原因で、予想しない結果で発現するもので、さらに、スポーツ現場それぞれに特有な環境であり、現場ごとに対応の仕方も変わる性質があるので、各現場にあった防止手順が必要だからであ

ろう。

- ・武蔵野市のスポーツイベント毎年開催され、2,000人を超える参加者がいるとのこと、非常に興味深かった。従来スポーツにニュースポーツを含み24種目の体験ができるイベントとのこと。ラグビーあり、ストラックアウトあり、知らなかった種目や未体験の種目を市民が楽しんで体験し、以後のスポーツの取り組み活性化に一躍担っているものと予想できた。この取組を今後も継続してゆくためには、市の発表にもあった通り、危険要因の事前排除や適切な人員配置によって安全に運営されることが不可欠なのは明白である。
- ・立川市でも駅伝競走やハーフマラソンなど、大規模イベントが開催されるので、スポーツ推進委員として安全、快適な運営が継続できるよう貢献したいと思います。

報告者：遠藤 久

## 24 平成31年度ニュースポーツ研修会

主 催：東京都スポーツ推進委員協議会

日 時：令和元年6月22日（土） 13：20～15：30

場 所：ヤマトフォーラム 体育館（大田区羽田旭町／京急・穴守稲荷駅）

参加者：65名（全都[区分/市部]スポーツ推進委員及び社会体育担当職員、うち立川は2名）

対象者：東京都のスポーツ推進委員

目 的：「クロスミントン」 （実技講習）

・いつでも、どこでも、いつまでも 楽しめるニュースポーツの紹介

講師・団体名：「クロスミントン協会 理事長 今田 恵美 氏」

内 容：＜実技＞

### ●タイムスケジュール

13:20 受付開始

13:40 開講式/挨拶（東京都スポーツ推進委員協議会会長 新島 二三彦）  
講師紹介

14:10 研修開始（講師）

・準備運動（その場運動・軽ストレッチ／サークル反時計回りで足さばき／グルーピング）

・コートにて交代打ち合い

15:10 閉講式/挨拶/事務連絡

15:30 終了/アンケート回収(web提出可)

### ●競技概要

① テニス、バドミントン、スカッシュ各々の良さを融合させた、新しい次元のラケットスポーツ。  
コートで得点を競う対戦競技

② シングルス、ダブルスとも自コートエリアは5.5m×5.5mで両コート間は12.8m離れ  
(コートにネットは無し)

③ 各16点の3セットマッチ。ラリーポイント制。サーブは3本交替。  
(セット毎にコートチェンジ、第3セット目は6点毎)

④ サービスゾーンからスピーダーをサーブしてゲーム開始。

### ●特徴

① 2001年ドイツで生まれ欧米を中心に30カ国以上、競技人口は3万人に拡大中のニュースポーツ。2004年アメリカ経由で日本に渡り、大田区を拠点に国内スタート。

② 細かいルールや制限が少なく自由度が高い。ラケットの持ち方、打ち方も決まりが無い。  
ネットがなく、初めてでもすぐできる手軽さとスピード感溢れる競技性を併せ持つ。  
正式な大会でなければラケットとスピーダーがあればゲームが始められる。

③ 風に対して安定性のあるシャトル(スピーダー)なので屋外でのプレーが可能。ヘッドが発光  
スティック装着可能タイプのシャトル(ナイトスピーダー)を使用すれば暗い中でのプレーも可能。

④ ラケットは140g～180gとバドミントンのトレーニングラケットほどの重さ。バドミントンより短いラケットのため操作性が良く、手首の強化には抜群。

⑤ ネットがないのでミスショットが減り、結果ラリーは長くなる。

⑥ バドミントンのシャトルよりスピードが速いため(200km/h)動体視力の向上、反射神経をも鍛えることができる。

⑦ 競技名称の変遷：スピードミントン→スピードバドミントン→クロスミントン(現在)

⑧ 2011年に全世界をカバーする国際組織 I C O が設立され第1回世界選手権開催。  
まだ、マイナー競技のため（歴史が浅く、競技人口が多くないので）、日本代表として世界大会進出のチャンスが極めて高い（ただし旅費は自費）。しかも、そのまま世界ランクがつく。

感想：

●競技の親しみ/取り組みやすさ、難易度など

- ・全体的にはとても面白い。道具のセットも高価というほどでもないので手軽に着手しやすそうである。
- ・コートが比較的小さいので男女年齢差をあまり気にせず混合でゲームもしやすい。コートで混戦しない競技なので、危険性もほとんどないのも魅力。
- ・体をしっかりと持っていった上で打ち返さないとコントロールが難しかったりラケットに当たらなったりする。必然的に運動量が意外と多くなるが、テニスやバドミントンよりも反発力が強いのでラケットを大きく振り抜かなくても慣れてくると軽く当てるだけで割と返せるようになる。
- ・打ち合う際に最初のうちは、軌道が放物線になりがちだが、次第に床面と並行直線的な軌道をとれるようになり、よりスピード感が増してきて面白味も増す。
- ・スピーダーそのものの速さもあるが、打ち返すとスピーダーから音が出るので、より臨場感が増す。
- ・相手もうまくないとなかなかラリーになりにくいので、最初は上手い人を相手にして打ちやすい所に返してもらう感じで練習できると上達しやすいのかもしれない。

●説明/進行、準備運動、チーム分け(グルーピング)など

- ・講師の話は、平易でわかりやすかった。また、準備運動は、とても参考になった。
- ・全体で一重のサークルをつくり、反時計回りに移動（軽いステップ、ランニング）をしながら、足さばきを取り入れた実践的且つ、効果的・効率的なウォーミングアップになっていた。
- ・準備運動の最後は、椅子取りゲームのようにホィッスルの合図で、単純移動から停止アクションに入るもので、指定した人数で集まって止まる(まとまる)というもの。何回か指定人数を変えて、最後は、参加者全体をコート数に按分できるグループ数になるような人数を指定して進行し、準備運動終了時にはチーム分けが完了しているスムーズな流れであった。

(準備運動開始直前に全体の人数把握が必要)

報告者：井伊 務

## 25 平成31年度実務研修会

主催：東京都スポーツ推進委員協議会

日時：令和元年9月21日(土) 13:30~15:30

場所：新宿区若松地域センター(新宿区若松町/都営大江戸線・若松河田駅)

参加者：80名(全都[区分/市部]スポーツ推進委員及び社会体育担当職員、うち立川は3名)

対象者：東京都のスポーツ推進委員

目的：事業の実施に係る連絡調整に関する発想力・企画力 及び、推進委員に期待されるリーダーシップについて学びスキルアップを図る

講師・団体名：「東京都スポーツ推進委員協議会 顧問 阿部 正幸氏」

内容：<実技>

●タイムスケジュール

13:20 受付開始

13:30 開講式/挨拶(東京都スポーツ推進委員協議会会長 新島 二三彦)

13:35 講師紹介

研修開始(講師 講演)

15:20 質疑応答

15:30 閉講式/挨拶/事務連絡

15:35 終了/アンケート回収

●講演概要(前半：配布資料中心)

①スポーツ推進委員制度の確立

① スポーツ推進委員制度の変遷と役割の変化

② スポーツ基本法での要点

④東京都におけるスポーツ推進計画の推移



- ⑤生涯スポーツの振興
- ⑥地域のスポーツ環境の充実に向けて
- ⑦連絡調整の具体的内容
- ⑧スポーツ推進委員に求められる具体的な役割
- ⑨事業の企画・運営の基本手順
- ⑩事業成功のために

●講演概要（後半：現場事例より）

① 第30回 地域レクリエーション2012（心の東京改革推進モデル事業）

牛込第一中・牛込第三中の生徒会による企画・運営（笹筒地区青少健）

② 必要性・発端

- ・学校荒れ解決（学校型非行：校内暴力／学級崩壊／イジメ、キレ型非行）
- ・その他の事由（「もの志向」「メディア依存」／間接体験の広がり実体験不足／家庭形態の変化と倫理観・躰の希薄化／知識偏重による偏差値教育）

③当時の時代背景・社会状況

- ・高度成長期、遊び場減少、TVゲーム普及
- ・核家族化、共働き世帯増、家族団らんの機会の減少
- ・地域での連帯感や相互扶助的な営みの希薄化 ⇒ 家庭教育力／地域教育力／社会規範の低下傾向

④笹筒地区の概況

- ・中学校2校、小学校4校、幼稚園・こども園・保育園が5園
- ・約2万世帯、人口：約3万6千人

⑤事業の目的と発展

- ・中学生の自主性・自立性をはぐくむ／地域との交流／大学院生の運営協力

⑥活動の成果

- ・異年齢の子ども達の触れあいの中で、多様な価値観を学び、役割がみにつく
- ・希薄になりがちな「つながり」や「絆」の強い地域づくりに貢献
- ・地域への愛着心の醸成
- ・地域の大人達から感謝される喜びや満足感の体験
- ・学校の枠を超えた仲間として付き合うことができる
- ・中学卒業後も地域行事に参加してくれる子どもが増加

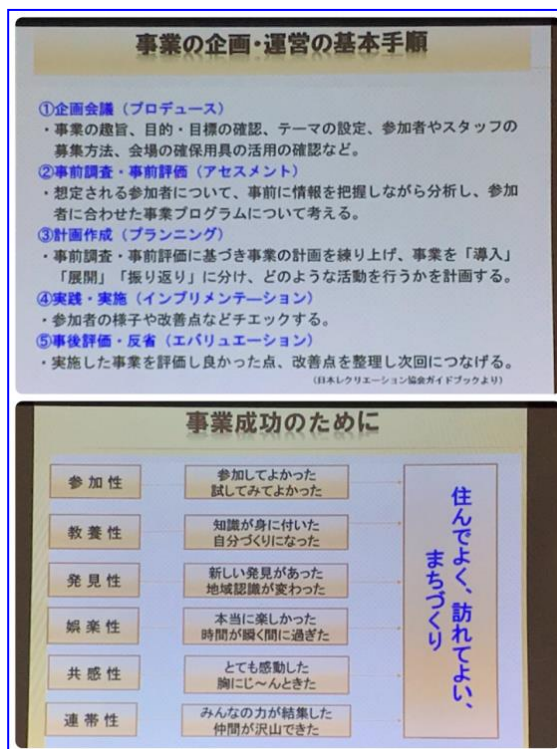
⑦今後に向けて（世代を超えた活発に交流するまちづくりを目指す）

- ・次世代リーダーの育成  
同年代のリーダーの存在は身近なモデル／次世代リーダーとしての期待
- ・地域のつながりを育てる  
事業をきっかけとして多世代間で交流／安全・安心の地域社会づくり
- ・学校との連携  
地域・学校が互いに連携・協力を図り、地域全体で子ども達の健全育成を支える

感想：

- ・前半の理論的な話は、はじめて委員になるメンバーは知っておくべき内容だと思う。内容はまとまっていたが、数年以上の経験者には特別に新しく聞く内容ではなかったため、若干新鮮味が欠けた。  
スポーツ基本法など、出典、根拠のエビデンスを示しながら「スポーツ推進委員とは」という内容。
- ・後半の事例を示した話は、経験年数に関わらず意味のある内容で、素晴らしい成果を示すものとなっていた。  
うなずける内容であったが、時代のせいもあるのかもしれないが、自らの地域に当てはめた場合に「少々違和感がある」気もする。（もちろん、講師は「このようにすれば成果が出せる」という絶対的なものを紹介したのではなく、その企画力や実践力の例として示しているのは承知している）
- ・講師の話からは、未来を志向した際に中学生はキーパーソンであり（これは賛成できる）、スポーツ推進委員は地元の青少健に関わる事が重要であると聞こえるが、青少健においても中心的推進力とならねば、なかなかできる事ではない。改めて、色んな推進委員の事例紹介を聞いてみたいと思った。

報告者：井伊 務



## 26 令和元年度女性委員会企画研修会

主催：東京都スポーツ推進委員協議会

日時：令和元年12月7日（土）

会場：江東区深川スポーツセンター 体育館

立川市参加者：2名

研修内容：『ゴールボール』

講師：木内 清治（所属チーム・ローラ作戦）

自らも目に傷害を持ち、社会人チームで活躍中

内容等：

◎ ゴールボールとは目隠しをしながら鈴の入ったボールを転がして、ゴールに入れることで得点する視覚障害者の競技で障害者スポーツの一つ。第二次世界大戦の傷痍軍人のリハビリテーションとして考案され、ヨーロッパで盛んに行われている。パラリンピック正式種目。

日本では1994年に日本ゴールボール協会が発足した。2004年アテネ大会に女子チームが初出場し、2012年ロンドン大会で金メダルを獲得した。男子は2020年東京大会に初参加する。

◎ 競技の概要

【チーム編成】1チームは最大6名・ベンチコーチが3名で編成される。コート上には選手3名が出場。

選手は全員アイシェード（目隠し）を装着し、見えない状態でプレーをする。

【競技用具】ボール→バスケットボール（7号球）とほぼ同じ大きさ。

重さは1.25kgでバスケットボールの2倍。

中には鈴が入っている。

ボールに穴がいくつか開いて鈴の音が聞こえる。

ゴール→高さ1.3m×幅9mでサッカーゴールのようにネットを張る

アイシェード→スキーゴーグルに類似。徹底して視覚をふさぐ為、アイパッチを貼ったのち着用

【競技時間】1試合は12分ハーフの合計24分（3分間のハーフタイム）

【コート】バレーボールコートと同じ

ラインはロープを入れて貼る（手で触ってわかるようにする）

コート内が攻撃側・ニュートラル・守備側エリアに分かれている。

【試合進行】最初の投球権は声を出したじゃんけんで決める。

投球は審判の「プレー」のコールで始める。

投球者を含め、攻撃側のチームは守備側に不利になる音を出さない。

守備側選手がボールに触れてから10秒以内に投げ返す。

この他反則があった場合には相手ボールの投球となる。

プレー中は音が頼りになるため、観客も静かにする。

◎当日の研修の流れ

社会人チームの模範プレー→アイシェード装着してラインをつたいながらの移動→ボールを使ったパス練習→守備練習（ゴールを阻止するための左右への寝転び方）→実践的な試合と審判

《感想》当日は66名の参加者がいて、活気ある研修であった。パラリンピックの時にテレビで見ていたゴールボールだが、今回ルールを知ることによって初めて楽しさを実感した。研修の流れも非常に良く、スムーズに競技を理解することが出来た。アイシェードを装着することでハンディの有無に関わらず、同条件で競技を楽しめることが魅力的に感じた。そして視覚を奪われることで聴覚が研ぎ澄まされる感覚も面白かった。バレーボールコートとボール、アイシェードがあれば始められるので、是非色々な人に体験してもらいたい。とても有意義な研修だった。

報告者：荒木 薫

## 27 令和元年度東京都地域スポーツ支援研修会

主 催：東京都スポーツ推進委員協議会

日 時：令和2年2月8日（土）

場 所：立川市女性総合センター・アイム

テーマ：スポーツを取り巻く環境とスポーツ・インテグリティ

講 師：隼あすか法律事務所 弁護士 椿原 直 氏

内 容

- ・スポーツ・インテグリティとは  
スポーツの実施や指導において、通常守らねばならないルールや規定よりも広範な立ち振る舞いや努力目標のようなもの。  
コンプライアンスと異なり、自発的かつ積極的に取り組むもので、当事者の立場から「よいことをする」ことで、スポーツが社会に受け入れられるよう努めるためのもの。
- ・暴力、ハラスメントへの対応  
スポーツ（指導）の現場で起こる心理的、肉体的加害や性的嫌がらせ、懈怠などを類型化し、要因について考える。  
ハラスメントは「気持ち」の問題ではなく、「事実」をもとに判断される。
- ・スポーツ外での不祥事  
当たり前のことを当たり前目にやってください、という話。だからこそ難しいもの。  
あらかじめ感度を高め、情報を収集し、実践していく。
- ・スポーツ事故とインテグリティ  
事前の予測。起こってしまった際の対応。  
起こさないために制限だけを一方的に加えるのではなく、どのように対処するか柔軟な姿勢。
- ・不祥事が起こったら  
対応や処罰などのルールの策定。  
推進委員ができるかもしれないこと：処分ではなく、話し合いの場を設けること。

報告者：中野 幸喜

\*\*\*\*\*





# 立川市スポーツ推進委員協議会実践活動報告書

(平成30年4月1日～令和2年3月31日)

発行 令和2年10月  
発行者 立川市スポーツ推進委員協議会  
立川市  
〒190-0015 立川市泉町786-11  
電話 042(529)8515  
E-Mail [sports@city.tachikawa.lg.jp](mailto:sports@city.tachikawa.lg.jp)